

## 210810 18:30～美麻地区住民説明会

【出席者】住民:6名 (事務局、(株)地域総合計画、報道:1名)

NO	テーマ	意見要旨	回答
1	居住誘導について	住む人の年代や目的によって、住みたい場所は変わってくるのではないかと。若い人は敷地が広くて隣と離れているような場所、商売をする人や高齢者は中心市街地など。	中心市街地を一つの中心拠点として、既存の集落を活かしつつ、それぞれの活動拠点をともに活性化して持続可能な都市として結びつけていく。各地域がしっかり活性化して、中心拠点が繁栄する仕組みづくりを考えている。
2	中心市街地について	大町の商店街はとても大事。残っている昔の姿を前面に出して、大町らしい景観のまちができるのではないかと。	現在、官民連携で中心市街地の未来ビジョンをつくっている。そうした中で歴史的な建物を活用した商業のやり方も検討し、大町市を盛り上げていきたいと考えている。
3	取り組みの姿勢について	まちづくりは、そこに住んでいる人たちの主体性が大事。住民の主体性をいかに呼び起こしていくかを工夫してほしい。	中心市街地では、100人衆会議の中で地域の資源を発掘しながら、団体や個人のお店など、中核となるメンバーに関わってもらって、将来のまちづくりのビジョンづくりを進めている。エリアプラットフォームをつくりながら、将来の大町をどのような姿にしていくか、中心市街地活性化と人づくりを並行して進めている。
4	ネットワークについて	美麻では小さな拠点をつくらうとしている。市街地とのネットワーク確保は大事なことだが、バスが走っていれば良いということではないので、考慮してもらいたい。	ネットワークについて、やはり公共交通と幹線道路だけではなく、人との交流についても仕組みづくりなどを検討していきたい。
5	里山整備について	有害鳥獣や災害対策の面からも、集落周辺の里山整備は進めていく必要があるが、山の持ち主が少なくなってくると進めるのが大変。林業事業体だけで整備するのではなく、地域住民にも関わってもらう必要がある。	課題として認識し、仕組みづくりをしていきたい。間伐などの森林整備だけではなく、レクリエーションの山づくりなど、ゾーニングを検討する。
6	その他の意見(会議の運営等)について	資料の図が小さくて見づらいので、大きい紙で用意してほしい。	・本日の分については別途お渡しする。翌日以降の配付資料について対応する。

## 210811 18:30～八坂地区住民説明会

【出席者】住民:4名 (事務局、(株)地域総合計画)

NO	テーマ	意見要旨	回答
1		次回の住民説明会では、地区別に具体的な拠点の位置づけと人口の誘導の考え方が示されるという認識でよいか。	次回の住民説明会では、中心市街地だけでなく、各地区の考え方もお示したいと考えている。
2	拠点の位置づけについて	P.10で徒歩による利便性の高いエリアが示されているが、今後、そのエリアを居住や施設を集める中心的な場所として位置づけていくという考え方でよいか。便利なエリアから離れている地域については、公共交通の充実が必要かと思う。	拠点の設定については、交通網や施設の立地状況、公共交通の徒歩圏の状況などを踏まえて、検討していきたいと考えている。支所のある場所が拠点の基本になると考えているが、20～30年と時間をかけて誘導を図っていく計画であると考えているので、時間軸をうまく使いながら、各集落の拠点における誘導のあり方を検討していきたい。
3	居住誘導について	大町市の都市計画区域内には田んぼがあったり、農業振興地域なのに家が建っている場所が多くあるような気がしている。そのような場所は、今後30年後を考えると、緩やかな誘導を図っていく方向性もあると思う。	ご指摘のような場所から中心市街地の誘導区域内へ誘導することも考えられるが、各地区には集落が形成されてきた成り立ちがあり、それぞれの旧村が築いてきた都市計画があるので、そこは尊重しながら、検討していく必要があると考えている。
5	コミュニティについて	旧村の時代には、そこら中の山の中に集落があったが、県道、国道沿いに集落を整備して、交通機関ができて、中心部との行き来も便利になった。今後はある程度集約されていた方が公共料金も安くなると思うし、コミュニティを維持していくためにはコンパクトが良いと思う。	コミュニティを維持するためには一定の人口が必要であり、各地区における誘導のあり方も検討していかなければならないと考えている。

NO	テーマ	意見要旨	回答
1	計画の目標年次について	計画の目標年はいつか。松本糸魚川連絡道路ができれば人の流れが変わると思われる。	概ね20年後を見越した計画である。また、計画は必要に応じて適宜見直しを行う。
2	緑の基本計画について	近年、動植物に外来種が増えてきていることから、地域固有の動植物を大切にす観点がほしい。	市内の関連する計画の中にも記載はあるが、緑の基本計画の中でも記載について考慮していきたい。
3	基本方針(P.33)について	基本方針で、「まち」、「里」、「山」とあるが、「水」も大町にとって大切な要素なので加えてはどうか。	こちらで示している基本方針は、土地利用を構成する要素(ゾーニング)で整理している。ご指摘のとおり「水」も重要な要素と捉えており、わかりやすい記述となるよう引き続き検討していきたい。
4	計画全般について	木崎湖の周りは環境が良く、移住者のアンケートでも環境を求めている人が多く、大切にしないといけない要素である。現在、里山の整備を行っているが、市民の活動だけでは地域の環境は守れない。一方ではメガソーラーの計画がある。保全しなければいけないエリアを決めていく必要があるのではないかと。木崎湖西側の風致地区のエリアを広げるなど環境を守りながら特徴づけていくべき。	今回「立地適正化計画」、「緑の基本計画」をセットで作成しており、それぞれの計画の中で施策を検討している。また同時並行的に作成することで施策の整合性を図ろうとしているものである。今後、庁内で検討を進め、10月の説明会で具体的な施策をお示ししていくので、皆様からご意見をいただきながら進めていきたい。
5		この説明会の位置づけは何か。	・説明会は6地区で段階的に進めていく。第1回目は、計画の概要について説明し、10月の2回目では計画の内容について説明する。この場でも意見は頂いて構わない。また、必要に応じて計画に反映していく。
6		出された意見はどのように反映されるのか	・6地区で2回ずつ行われる住民説明会で出された意見はまとめたものを作成し、HPで公開する。
7	その他の意見(会議の運営等)について	住民説明会の参加人数が少ない。どのような周知をしたのか。大町の特徴を捉えた計画づくりに向けては市民参画をもう少し広げることが必要ではないか。どうしたら住民から多くの意見を集めることができるのかを検討してほしい。また、意見募集は早い段階の方がよいのではないかと。	・市の広報、有線放送、HPで周知している。また説明会初日はマスコミも入れて新聞報道をしている。参加者の増加については課題として受け止め、更なる工夫をしていきたい。 ・市民意見については、計画策定の動機付けからの流れ(ストーリー)が重要であり、ある程度のテーマ設定をした中で市民の意見を聞くことが重要と考えている。
8		検討委員会はどのような人で構成されているのか。	・市内各種主要団体(自治会、地元まちづくり団体、商業関連団体、農業団体など)の方や公募市民で構成されている。委員名簿はHPにて公開している。

NO	テーマ	意見要旨	回答
1	市の都市計画について	現在の市の都市計画として、用途地域の指定状況はどのようになっているのか。図面はあるか。	資料P.8の図中、赤線で囲われたエリア内に用途地域が指定されている。また、黒い線で囲われたエリア内に都市計画区域が指定されている。立地適正化計画は都市計画区域内を対象とすることが基本であるが、八坂、美麻地区は都市計画区域外となっており、今回、市全体を対象として地区別の方針についても検討を行っている。
2	空き家について	空き家が多いのは人口集積が高いまちなかなのか、それとも八坂や美麻地区で多いのか。地区別に内訳の数値が分かれば教えてほしい。	空き家数の内訳については、地区別に集計可能か確認の上、次回の地区別住民説明会ではお示しできるよう検討したい。
3	地区別の方針について	地区別の方針については、都市計画マスタープランを踏まえて検討するとのことだが、どの程度具体的に示す予定なのか。例えば、道路をどこに整備する、施設をどのように配置するかなど。社地区では農協や警察署などがすでになくなっている状況であるが、住み続けられるために、具体的にどこまで検討するのか。	立地適正化計画では、まず、信濃大町駅周辺の用途地域内に、市内に1つしかないような中核的な施設を誘導する都市機能誘導区域を設定し、その周辺に居住を誘導する居住誘導区域を設定する予定である。また、P.4の図で示しているとおり、中心市街地だけでなく、各地区の既存集落においても、暮らしを支える支所や公民館などの施設を維持する拠点を設定し、中心市街地と各集落を幹線道路や公共交通と結んで繋がりをつくっていく方向性を検討している。
4	人口減少を見据えたまちづくりについて	5、6年前の新聞の報道で、2040年頃には人口が減り、全国で900の市町村がなくなるといふ予測がでており、その中に飯山市と大町市が入っていた。大町市では子育て環境の充実など、様々な問題があると思うが、市として2040年に成り立っているのか、という観点でまちづくりを考えたことがあるのか。	P.8の図をみると、2040年には総人口が約10,000人減少すると予測されている。市としては、現在の暮らしの利便性を可能な限り守っていくために、まずは中心市街地に人口を誘導して各施設の利用圏人口を確保することで、暮らしを支える施設を守りつつ、各地区とのつながりを公共交通などで確保していきたいと考えている。

NO	テーマ	意見要旨	回答
1	市の都市計画について	2014年に都市計画マスタープランが策定されてから7年経過している。その間、市の都市計画はどのようなことを行ってきたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の都市計画MPは、平成15年に当初計画を策定し、平成26年に改定した。その間、大型商業施設周辺における用途地域の変更による規制の見直しや地区計画の策定による建物の高さ規制を行ってきた。また、3年前の緑化フェアを契機に、住民と協働による街なかの緑の保全・創出など地域のまちづくりを進めてきている。</li> <li>・市では昭和47年に用途地域を指定し建物の規制をしてきたが、今後は、立地適正化計画の中で居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定し、人口密度の維持による都市の存続を目指していく。</li> </ul>
2	緑の基本計画について	今後、人口減少や財政が厳しくなることが想定される中で、緑の維持には費用が掛かり計画の実現が難しいのではないかと思うがどのように考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の中で空地・空き家が目立っており、先ごろ、地権者アンケートを実施したところである。空地などの低未利用地において、緑を取り込んでまちづくりに活用していきたいと考えている。</li> <li>・緑の施策については、庁内各課においてできる取組を検討しているところである。内容は10月の説明会でお示していきたい。</li> </ul>
3	公共施設について	<p>保健センターの老朽化が進行している。また、大町病院の西棟も古くなっている。そのため、あゆみ園も取り込みながらこれらを複合化し、老人から子どもまで利用できる福祉・医療の拠点施設ができないか。</p> <p>佐久市の駒場公園では、100名くらい参加している育児サークルが活動し、コミュニティが形成されている。そのコミュニティを中心に人が集まり、町が活性化している。そのようなことが駅周辺で行われていくと良いと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地適正化計画の中では、病院、福祉施設のほか、商業施設などの都市機能施設を維持・集積を図っていこうとするものであり、頂いたご意見は計画の主旨に沿っていると思われる。また、その周辺に居住誘導を行い、人口密度の維持を図っていかれたらと考えている。福祉施設についても庁内で検討を進めており引き続き計画づくりに反映していきたいと考えている。</li> </ul>

NO	テーマ	意見要旨	回答
1	空き地の管理について	3日前に熊騒動があり、熊に驚いて空き地に逃げたら雑草がかなり生えていた。地主にお願いして、空き地の管理をしっかりやってもらいたい。	立地適正化計画の中で、空き地の所有者を対象にアンケート調査を行っているので、空き地の管理のあり方についても計画に反映していきたいと考えている。また、緑の基本計画では空き地の有効活用についても検討している。
2	太陽光発電について	一昨年に神奈川から移住してきたが、太陽光発電が多くなってきているのが気になっている。コロナ禍の中で、これからも自然エネルギーを使った発電も多くなってくると思われるが、その部分と連携しながら計画に盛り込んでいただきたいと思います。	太陽光発電が多くなってきていることは認識しており、国のガイドラインで規制が必要なところもでてきている。立地適正化計画の中でも、低未利用地活用の施策を盛り込んでいく予定だが、そのような観点も視野に入れて検討していきたい。
3	ハザードエリアについて	立地適正化計画と災害の関係について、市街地エリアと常盤地区に広く指定されている浸水想定区域への対応を今後どのように考えていく予定なのか。	1,000年に1回の確率による50cm未満の浸水想定区域が広く指定されている状況であるが、立地適正化計画の防災指針の中で、具体的にどのように対応していくのかを検討していく予定である。 全国的にみても浸水想定区域内に居住誘導区域を設定している自治体が約90%あり、大町市もこのような状況の中で、防災指針の中で対策を盛り込みながら、誘導区域を設定していきたいと考えている。
4	大町の特徴を活かしたまちづくりについて	大町の素敵な環境を守っていくためには、大町が自立したまちになる必要があり、そのためには市の特徴を活かすことが重要だと思っている。他の地域にはない北アルプスや仁科三湖、水、空気、田舎の環境など、様々な特徴がアンケートからも読み取れる。立地適正化計画の策定にあたっては、市の特徴も踏まえながら、ビジョンを示して、環境に配慮した取組を是非行ってほしい。 水なども活かしつつ、景観保全も重要であるが、高い建物や太陽光発電の規制についても、景観に配慮してある程度必要であると思う。ドイツの例を参考に、住宅の屋根などに限定することも考えられる。市として、どんなまちを目指すのかというビジョンを明確にして、官民が共感して協働で進めてほしい。	ご指摘いただいた内容が立地適正化計画の中でも肝になる部分である。基本方針の中では、まち・里・山それぞれの魅力を大切にすることを掲げている。まちなかに誘導するだけでなく、周辺集落についても歴史的な成り立ちを考慮して、守っていくことを計画に掲げていきたいと考えている。 水や景観といった緑の基本計画にかかわる部分についても、庁内検討委員会などで詳細を検討しているところである。
5	お年寄りにやさしい街路のあり方について	毎日自転車などで通勤しているが、歳をとると、シルバーカーを使う機会も増えると思う。国道付近の街路を通る際に、街路樹が邪魔で走りづらい場所もある。ゾーンをしっかり決めて、自転車やシルバーカーで通りやすい街路を整備してほしい。今後はお年寄りの方の人数も増えると思うので、自分が歳をとったときにも住みやすい街路になってほしいと思う。	立地適正化計画では、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを掲げている。ネットワークの中には道路だけでなく、公共交通のあり方も考えていく必要があるため、お年寄りにもやさしい道路や公共交通のあり方も検討していきたい。

6	商店街のあり方について	<p>観光業のお手伝いをしたことがあるが、大町市は観光も外せないと思う。観光客が信濃大町駅に降りた際に、商店街が寂しい。今の古い街並みは残しつつ、商業施設などを適正に配置して、明るいイメージに変えてほしい。</p>	<p>現在、官民連携のエリアプラットフォームという事業行っており、市民の中で活躍されている方を発掘し、岳陽高校と連携して未来ビジョンを策定する予定である。その中でも、課題を解決していく場づくりを行っており、信濃大町駅を降りてからのようなイメージを持ってもらえるかという点も重要であると思う。建設課としても、駅前花壇や小学校のフラワーポットなどの施策も検討しているところである。</p>
7	まちづくりのビジョンについて	<p>今回は1回目の説明会なので、具体的な内容はまだ提示されていないが、次回の説明会ではまちづくりのビジョンを示してほしい。市民の声を聞いていくことが大切であり、市が考えるビジョンを示した上で、市民の方に賛同してもらわないと始まらないと思う。</p> <p>計画は様々な分野に関係すると思うので、今回の説明会は建設課が中心だが、できれば他部局の担当者にも参加していただき、質問にも答えていただきたい。</p>	<p>次回の説明会では、まちづくりのビジョンをお示しできるように、引き続き、市民の皆さんの声を聞きながら、検討を進めていきたい。</p>
8	自然エネルギーについて	<p>長野県では2050年ゼロカーボン戦略を掲げている。自然エネルギーの問題は個人的にも重要だと考えており、例えば、市役所の屋根にソーラーパネルを設置することも考えられると思う。</p> <p>今年、再生可能エネルギー施設を積極的に導入する重点区域を設定することが努力義務として設けられたが、上田市の例のように、各家庭の屋根にソーラーパネルを設置することで、再エネを推進していくことも考えられるのではないかなと思う。</p> <p>P.31の課題にもあるように、景観の保全を図るために、景観保全区域のようなものを設定する必要もあると思う。</p>	<p>再生可能エネルギーの導入に関しても今後、情報収集を図っていききたいと思う。</p>